広報 ひろしま
市民と市政
平成31（2019）年
2.1
通巻1655号
広報紙は1日と15日に発行します

市役所あれこれ便利電話
おしえてコールひろしま
年中無休8～21時
☎082-504-0822
FAX082-504-2121
●担当課へは各課直通番号で
●市外局番の記載のない電話番号はすべて市外局番(082)です

「地域の誇りの史跡」を後世に

中小田古墳群（安佐北区）と出土品

▲三角縁神獣鏡が発見された第1号古墳。標高97㍍の丘陵上にあり、全長約30㍍、後円部の直径約20㍍の前方後円墳で、後円部の中央に竪穴式石室（石で囲われた部分）が残っている
◀（左）発掘された三角縁神獣鏡（面径20.1㌢、縁高0.9㌢）（広島大学考古学研究室提供）
◀（右）車輪石（長径10.7㌢、短径9.5㌢）。腕飾りと考えられている

中小田古墳群は、太田川下流東岸に沿って延びる標高60～130㍍の丘陵に存在する12基から成る古墳群です。三角縁神獣鏡や甲冑類などが発見され、平成8年に国の史跡として指定されました。

問文化振興課文化財係（☎504-2501、FAX504-2066、Eメール bunkazai@city.hiroshima.lg.jp）

4世紀に太田川下流域を支配した有力者の墓と推測

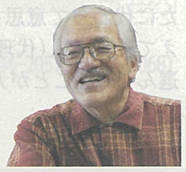
安佐北区口田南の県道37号線から東へ徒歩30分ほどの丘陵地帯に、中小田古墳群第1号古墳（前方後円墳）があります。この丘陵は、現在の広島市街地である三角州に出ようとする太田川下流域が見通せる位置にあります。

ここで、三角縁神獣鏡（上の左写真）や甲冑類などが発見されたのは、昭和36（1961）年のことです。昭和54（1979）年に保存を目的とする発掘調査が行われ、前方後円墳の他、大小9基の古墳が確認されました。その後確認された2基を含めた12基が、国の史跡中小田古墳群です。

第1号古墳の竪穴式石室からは、三角縁神獣鏡の他、獣帯鏡、車輪石（上の右写真）、玉類、鉄斧などが出土しており、4世紀中頃の築造と考えられます。副葬品などから、被葬者は地域の最有力者と推測され、中央政権との関わりにおいて非常に重要な立場にあったと考えられています。

「卑弥呼が各地の有力者に分け与えた鏡です」

古墳の発掘・調査に携わった広島大学の古瀬清秀名誉教授（69・右写真）は「三角縁神獣鏡は、邪馬台国の女王卑弥呼が全国を統一していく過程で各地の有力首長に贈与したものです。中小田第1号古墳はこの鏡を副葬し、太田川下流域を代表する前期古墳です。周辺には弥生時代の首長墓や古墳時代の大きな集落跡があり、この地域が広島市域の歴史・文化を考える上で極めて重要な場所であると考えられます」と話します。



保存・継承のため地元住民が活動

史跡を後世に伝えるため、地元で活動するグループ「大人のかくれ家倶楽部」（下に関連記事）は、平成18年から遊歩道※の整備や見学会などを行っています。

※古墳への遊歩道は、昨年7月の豪雨災害で一部被災し、現在は、松笠観音寺（東区戸坂山根一丁目25-61）からのルートのみです。今後、再整備を予定しています。ご了承ください

遊歩道整備などに尽力 -大人のかくれ家倶楽部-

公民館の活動をきっかけに、平成18年に結成した「大人のかくれ家倶楽部」。現在31人、平均年齢74歳のメンバーが、里山整備など自然との触れ合いを通して、世代を超えた地域住民の交流をお手伝いしています。その一環で中小田古墳群への遊歩道を整備しました。しかし、昨年の豪雨災害により歩道の一部が失われてしまいました。代表の木戸敏明さん（83・右写真）は「これまでの活動資料や写真も流されてしまいましたが、貴重な古墳群を守り伝えるため、今後もさまざまな活動をしていきたいです」と話します。

高い位置にあり被害を免れたツリーハウスもみんなで作った大事な宝物です。壁に残る数枚の写真の中には、元気な子どもたちの姿（左写真）がありました。

ご参加を　史跡中小田古墳群を学ぶ会

広島大学考古学研究室の関係者などを講師に、史跡について学びます。
日3月2日㈯、16日㈯の午後2時～4時（全2回）　場口田公民館（安佐北区口田四丁目9-19）（公共交通機関でご来場を）
内広島大学古瀬名誉教授による講演、同大学学生による発表、三角縁神獣鏡など出土品の展示、市文化財団学芸員による発掘調査の概要講演、古代体験コーナー
申ファクスかEメールで、住所、氏名、電話番号を記入し、文化振興課文化財係（左記）へ。先着50人程度

主な内容　P2「人生会議」をご存じですか　P3 地域の子育てを応援

P1–P6 編集・発行：広島市広報課（〒730-8586 中区国泰寺町一丁目6-34 ☎082-504-2117 FAX082-504-2067）